

Kory Earle (コーリー・エール)：脱施設化を推進しよう

Hello everyone and welcome!

皆さん、こんにちは！

私は、カナダの施設と知的障害のある人たちのことをお話しします。少し歴史の話から始めて、現在の私たちの状況に至るまでを皆さんに伝えようと思います。

カナダでは、かつて少なくとも 60 か所の大規模施設が建てられました。これらの施設は、知的障害のある人や精神障害のある人たちをその中に住まわせるために作られました。

多くの人が、これらの施設の中で暮らし、そして亡くなっていきました。その数を正確に知ることは難しいことです。その人たちの記録の多くが無くされたり、捨てられているからです。しかし、何十万人もの人々がこれらの施設の中で生活し、死んでいったと考えられています。

施設は土地が広いところに建てられました。施設はたいてい田舎に作られました。多くの施設は、森や原っぱなど、建物のない土地に囲まれていました。施設は、他の皆が暮らしている地域から遠く離れ、隠されていました。施設の建物はふつう、高い壁に囲まれていました。施設中では、人びとは部屋に住んでいましたが、その部屋のドアはいつも鍵がかかっていました。

障害のある人たちは、多くの場合、自分の地域の外に送られました。時には、施設に入るためにカナダの別の州に送られることさえありました。そのため、家族と離れ離れにされました。

障害のある人たちが施設に送られたのは、社会がその人たちのことをどのように見ているかという、考え方のせいでした。その考え方には、2 種類のモデルがあり、2 つとも、カナダで施設が増えることに役立ちました。

1 つのモデルは、医療モデルと呼ばれています。医療モデルの考え方は、1800 年代の終わりごろから使われ始めました。医療モデルでは、障害がある

ことを、どこかが病気であるか、何かの疾患にかかっていると見ます。医療モデルは、障害を治療したり、治したり、管理したりする方法をみつけようとし
ます。医療モデルは障害を「悪いこと」と考えます。あるいは、障害とは何か
恥ずかしいことと考えます。今日、私たちはこの考え方が間違っていることを
知っています。

しかし昔は、施設は専門的な病院だと思われていました。障害のある人たちが
必要としている世話をを行うために施設が「作られた」のです。

しばしば医者たちは、家族に対して、障害のある子どもを施設に入れるように、
強く言いました。医者たちは親に、施設はとても良いところだと言いました。
医者たちは、あなたたちの子どもたちは専門的な世話を受けられますよと親たち
に言いました。親たちは、彼らの子どもは施設に入ると良いことがあると言わ
れたのです。

親たちは、施設はあなたたちの子どもにとって安全ですよと言われました。専
門家が見張っていると。家族は、専門家たちのところにいるほうが、子どもた
ちはより良い人生を送れると信じ込まされたのです。親たちは、障害のあるわ
が子のためにいちばん良いことをしていると信じるようにされたのです。

でも、親が言われたことは嘘でした。施設的环境は良くありませんでした。中
にいる人たちはいじめられ、放っておかれました。人が大勢い過ぎて、治療と
言うようなことはほとんど行われていませんでした。人々は「専門的」ケアを
受けているよりも、倉庫の中につめこまれているようでした。

多くの障害のあるカナダ人が、こうした施設の中で何年も苦しんでいました。

施設と、そこに住むようにさせられた人々のことはさておき、社会は、障害の
ある人たちについてのもう1つ別のモデルを考え出しました。

この考え方はリハビリテーション・モデルと呼ばれるものでした。こちらの考
えは 1950 年代頃に始まりました。リハビリテーション・モデルでは、障害
はまだ医療的なものでした。障害は治すものだと考えられていました。しかし
専門家たちは、障害は専門的な訓練によって治すことができると考えるよう
になったのです。障害者は、施設の中で、社会で生きていくための生活の技術を

学ぶのだということになりました。

しかし、多くの場合、障害のある人たちが施設を出ることはありませんでした。施設を経験して生き残っている人たちの多くは、一時期だけ施設で生活したのではないと言っています。ほとんどの場合、死ぬまで施設にいてなくなっていました。

1960年代の後半頃から1970年代の前半頃にかけて、社会の人たちは、施設が何のためなのか疑い始めました。

同じ頃、障害者の権利のための運動も始まりました。

1960年代から1970年代にかけておこった社会的権利のための運動と市民の権利のための運動は、社会全員が人権と市民の権利を使っているわけではないことを明らかにしました。

1970年代初め頃には、カナダ中の州の政府が施設の閉鎖を呼びかけ始めました。政府は、人々が地域で生活するために支援を行うための計画を作りたかったのです。

地域で支援が使えるようになると、多くの家族は、施設ではなく、地域で支援サービスを利用するようになりました。そうすると、そのころすでに施設に入っていた人たちは、閉じこめられたまま、忘れられてしまいました。

1973年にカナダで会議が開かれ、カナダ中からとアメリカ合衆国から。知的障害のある人たちが参加しました。

カナダでピープルファーストのグループが1974年に始まりました。主な関心ごとは、施設の閉鎖でした。彼らは地域で暮らすことを望んでいました。彼らは、自分たちの声が聴かれること、自分たちで選択できること、自分たちが人として完全な権利を持つことを望んだのです。

ここからは、カナダのピープルファーストの取り組みをいくつか紹介します。

The Community Inclusion Initiative

地域インクルージョンの取り組み

1960年から1985年の間で、カナダで約29か所の大きな施設が閉鎖されました。

1986年には、カナダ中で31か所の大規模、つまり100ベッド以上の入所施設がまだありました。

1万人ぐらいの人たちがそれらの施設で暮らしていました。

この人たちを施設から出そうとすることは、あまり行われませんでした。ピープルファーストのような障害者のグループや他の人たちも、施設から人々を地域に出そうと試みてはいましたが、資金がなければ簡単にはできませんでした。

10年くらい後に、ピープルファーストとそのパートナーの団体が、施設にいる人たちを地域に出すための資金を出してくれと政府に頼みました。

政府は「いいですよ」と答え、1997年に地域インクルージョンの取り組みが始まりました。

この資金援助を得て、ピープルファーストとパートナー団体は、カナダ中の施設から人々を地域に退所させ始めました。

The next one is the National Task Force on Deinstitutionalization

次に紹介するのは、**脱施設に関する全国タスクフォース**です。

数年後、ピープルファーストとパートナー団体のインクルージョン・カナダは、新しい取り組みを開始しました。二団体でタスクフォースを結成したのです。

「脱施設に関する全国タスクフォース」と呼ばれています。タスクフォースには、ピープルファーストのメンバーと、施設サバイバー（施設を生き抜いた人）、家族メンバー、ボランティア、スタッフが参加しています。

このタスクフォースはカナダにおける施設を監視します。カナダの各地の施設で何が起きているかを見ています。

何年もの間、タスクフォースは、施設閉鎖と、知的発達障害がある人たちが地域で暮らせるように、多くの活動を行ってきました。

タスクフォースはまた、施設が何を意味しているかの定義を作り、この定義は世界中で使われています。

その定義は以下の通りです：

施設とは、知的障害のあるたちが他の人たちからひき離されたり、隔離されたり、大勢集められて過ごしたりする所すべてを言う。施設とは、人びとが日々の決定を自分で決められなかったり、決めることを許されなかったりする所すべてのことである。施設であるかどうかは、単にその規模が大きいか小さいかによって決まるのではない。

タスクフォースは、この定義に基づいて仕事を進めています。

タスクフォースは、ほぼ毎月ニュースレターを出しています。ニュースレターの名前は「施設ウォッチ」で、全国の様子を伝えています。また、地域で自分にとって最高の生活を送っている人たちの話も紹介しています。

タスクフォースは『正しい道』と呼ばれるガイドも作成しました。このガイドは、どのように施設を閉鎖し、人々を地域に移すかについて政府を助けるためのものです。

最近、タスクフォースは研究者と一緒に活動しています。この人は、カナダで施設での生活がどのようなものだったかを調べました。この情報は、インターネット上のラジオ（ポッドキャスト）や政府の政策を手短にまとめた報告で誰でも見ることができます。

研究者によって、ほとんどの人が思いもよらなかったことが調べられました。その一部を紹介します。

カナダの施設に入所している人は、電話代、バス代、ジムの費用代、おやつ代などに使うように少額のお金をもらっています。しかし、その金額はとても低くて、必要な費用を全部払うことはできません。

また、施設やグループホームに入所している人たちは、異常な天気、特に高温の熱波のために健康が悪化する可能性が高いです。多くの場所にエアコンがないからです。狭い場所に多くの人が生きていることも危険です。さらに、こ

これらのことは火事が起こりやすくします。

私たちは2つ目の映画を作りました

カナダのピープルファーストは、施設についてのドキュメンタリー映画を作る活動を助けることにも取り組んでいます。私たちは映画の作り手と協力して、施設生活を生き抜いた人たちにインタビューを行っています。映画は2024年の3月にできあがる予定です。この映画では、**カナダのある州で、最後の大規模施設を閉鎖するために取り組んだ施設サバイバーたちとその家族たちの話**が紹介されます。『この4つの壁』という題名の映画です。

訴訟に参加しています

他の取り組みとしては、裁判に訴えることです。

カナダでは最近、本当に大きな2つの裁判がありました。

裁判の1つはピープルファーストのメンバーが起こしました。彼の名前はデビッドです。**デビッドは政府を相手にして、施設で彼がどんな風に扱われたかということ**を理由に裁判を起こしました。

彼は18年間、施設での生活を強制されました。彼はそこで**虐待を受けました**。また他の人たちがそこでいじめられ、ひどい扱いを受けるのを見ました。施設を出てからずっと、**デビッドはその施設が閉鎖されることを望んでいました**。彼はまた、施設内で傷つけられた人たちに政府が謝罪することを望んでいました。

5年間、デビッドは彼を信じる弁護士の助けを借りて政府と闘ってきました。

最近、デビッドは裁判に**勝ちました**。政府は罪を認めて謝りました。また、政府は施設にいた人たちが苦しんだ被害に対して**お金を払いました**。

デビッドが住むようにさせられた**施設は閉鎖**されようとしています。2024年3月に閉鎖される予定です。

もう一つの大きな裁判は、病院に入院させられた知的障害のある人が起こした

ものです。知的障害のある3人は、ある病院の精神科に無理やり入院させられました。彼らは精神上的健康問題があったわけではなく、知的障害があったのです。

何人かは何十年も精神科病院の中で暮らしていました。

大きな障害者団体とともに、この3人も政府を訴えました。彼らは障害があるために差別されたと言いました。他の障害の人たちと同じサービスを受けることができなかつたのです。

この裁判は長い時間がかかりました。3人のうち2人は裁判が終わる前に亡くなりました。

しかし、ようやく裁判が終わったとき、彼らが勝つたのです。これで、政府は、同州のすべての施設を閉鎖すると約束しなければならなくなりました。政府はその後5年間で施設閉鎖を実行するため、本当に良い計画を立てなければなりませんでした。

こうしたことは今でも起こっています。カナダのこの州の障害者にとっては非常に良いことです。初めて、人々は施設での生活を強要されなくなるのですから。

最後に、今日のカナダの施設について短く伝えたいと思います

カナダでは1986年から2006年の間に、だいたい1年に1か所、大施設が閉鎖されてきました。

この頃までには、障害者権利条約を作ろうと文案作りが盛んに進められていました。ピープルファーストをはじめ、カナダの多くの障害者団体は、この条約に署名するよう政府に圧力をかけました。

2010年にカナダは障害者権利条約に署名しました。条約は19条の、自立して生活し地域社会に組み込まれる権利を定めました。

2018年までには、カナダの3つの大規模施設に約300人の知的障害者が暮らすまでになりました。どの施設も新たな入所は受け入れていません。

何人が入所施設にいるのかという情報を調べるのは、新型コロナウイルス感染症が拡大していた間は難しかったです。しかし、私たちの調べや情報からは、知的発達障害者が施設に入所しているのは大規模施設だけではないことがわかっています。

カナダには、他の種類の施設で生活させられている知的障害者が何千人もいます。その場所には、**看護付きホームやグループホーム、リハビリセンター、長期のケア施設、ホームレスのシェルター、刑務所などの不適切な場所が含まれています。**

最近の調査では、それらの施設に暮らす日の数は**5万7,000人**を超えるとされています。

私たちがインクルージョンに向けて進んでいても、すべての人が施設ではなく地域で暮らす権利をたしかなものにするためにやるべきことはまだまだあります。

今日、話を聞いてくれて、ありがとうございました。

ぜひ、なんでも、質問してください。喜んで答えます。